

注意事項

1. 試験問題の数は60問で解答時間は正味2時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

(1) (例1)、(例2)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1) 101 応招義務を規定して

いるのはどれか。

- a 刑法
- b 医療法
- c 医師法
- d 健康保険法
- e 地域保健法

(例2) 102 医師法で医師の義務とされて

いるのはどれか。2つ選べ。

- a 守秘義務
- b 応招義務
- c 診療情報の提供
- d 医業従事地の届出
- e 医療提供時の適切な説明

(例1)の正解は「c」であるから答案用紙の(c)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
101	(a)	(b)	●	(d)	(e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	→ ●
(d)	(d)
(e)	(e)

(例2)の正解は「b」と「d」であるから答案用紙の(b)と(d)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
102	(a)	●	(c)	●	(e)

答案用紙②の場合、

102	102
(a)	(a)
(b)	●
(c)	→ (c)
(d)	●
(e)	(e)

(2) (例3)では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d へき地で勤務する義務
- e 臨床研修を受ける義務

(例3)の正解は「a」と「c」と「e」であるから答案用紙の (a) と (c) と (e) をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

103	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
103	●	(b)	●	(d)	●

↓

答案用紙②の場合、

103	103
(a)	●
(b)	(b)
(c)	→ ●
(d)	(d)
(e)	●

(3) 選択肢が6つ以上ある問題については質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4) 104 平成18年医師・歯科医師・薬剤師調査で人口10万人当たりの医師数が最も少ないのはどれか。

- a 北海道
- b 青森県
- c 茨城県
- d 埼玉県
- e 京都府
- f 和歌山県
- g 鳥取県
- h 徳島県
- i 佐賀県
- j 沖縄県

(例4)の正解は「d」であるから答案用紙の **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、											答案用紙②の場合、	
104	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	104	104
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(a)	(a)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(b)	(b)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(c)	(c)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(d)	(d)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(e)	(e)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(f)	(f)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(g)	(g)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(h)	(h)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(i)	(i)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(j)	(j)

(4) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例5)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例5) 105 動脈血ガス分析(自発呼吸、room air)の結果を示す。

pH 7.43、PaCO₂ 41 Torr、PaO₂ 83 Torr、HCO₃⁻ 25 mEq/l、

Na⁺ 138 mEq/l、K⁺ 3.2 mEq/l、Cl⁻ 95 mEq/l

アニオンギャップを求めよ。

解答：①②③ mEq/l

①	②	③
0	0	0
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9

(例5)の正解は「18.0」であるから①は答案用紙の①を②は⑧を③は①をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	0	●	2	3	4	5	6	7	8	9
105②	0	1	2	3	4	5	6	7	●	9
③	●	1	2	3	4	5	6	7	8	9

答案用紙②の場合、

	105	
①	②	③
0	0	●
●	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	●	8
9	9	9

- 1 E型肝炎ウイルスについて正しいのはどれか。
 - a 母子感染する。
 - b 肝硬変の原因となる。
 - c 劇症肝炎の原因となる。
 - d 熱処理で不活化しない。
 - e B型肝炎ウイルスとの重複感染が多い。

- 2 1歳6か月児健康診査でみられる皮膚疾患で最も頻度が高いのはどれか。
 - a アトピー性皮膚炎
 - b イチゴ状血管腫
 - c サーモンパッチ
 - d 尋常性魚鱗癬
 - e 伝染性軟属腫

- 3 過敏性腸症候群の症状はどれか。
 - a 発熱
 - b 浮腫
 - c 血便
 - d 食後腹痛
 - e 体重減少

- 4 腎血管性高血圧症について正しいのはどれか。
- a 左右腎静脈レニン活性(PRA)比が診断に有用である。
 - b 高齢者では線維筋性異形成が原因として最も多い。
 - c 全高血圧患者の約 30 % を占める。
 - d 高カリウム血症を合併する。
 - e 薬物治療が第 1 選択である。
- 5 呼吸器感染症と原因菌の組合せで誤っているのはどれか。
- a 肺膿瘍 ————— 黄色ブドウ球菌
 - b 院内肺炎 ————— マイコプラズマ
 - c 誤嚥性肺炎 ————— 嫌気性菌
 - d 重症市中肺炎 ————— レジオネラ菌
 - e 人工呼吸器関連肺炎 ———— 緑膿菌
- 6 原発開放隅角緑内障で病初期からみられるのはどれか。
- a 眼 痛
 - b 視力低下
 - c 角膜浮腫
 - d 虹彩萎縮
 - e 傍中心暗点

- 7 生命予後が最も不良なのはどれか。
- a 18 trisomy
 - b 21 trisomy
 - c 猫鳴き症候群
 - d Klinefelter 症候群
 - e Prader-Willi 症候群
- 8 妊婦で循環血液量が減少するのはどれか。
- a 前置胎盤
 - b 切迫早産
 - c 妊娠糖尿病
 - d 重症妊娠悪阻
 - e 血液型不適合妊娠
- 9 延髄背外側梗塞で病巣と反対側にみられるのはどれか。
- a 軟口蓋の麻痺
 - b Babinski 徴候
 - c Horner 症候群
 - d 小脳性運動失調
 - e 頸部以下の温痛覚障害

- 10 肺癌の臨床病期の決定に関係しない検査はどれか。
- a FDG-PET
 - b 腫瘍マーカー
 - c 気管支鏡検査
 - d 頭部造影 MRI
 - e 胸腹部造影 CT
- 11 肺癌の縦隔リンパ節転移によって起こる症候はどれか。
- a 血 胸
 - b 頻 脈
 - c 散 瞳
 - d 胸やけ
 - e 顔面浮腫
- 12 エストロゲンの欠乏が原因でみられる症状はどれか。2つ選べ。
- a 便 秘
 - b 多 汗
 - c めまい
 - d のぼせ
 - e 性器出血

- 13 急性副腎不全時に血中で低下するのはどれか。2つ選べ。
- a ブドウ糖
 - b 尿酸
 - c ナトリウム
 - d カリウム
 - e カルシウム
- 14 多発性内分泌腫瘍(MEN) 1型にみられるのはどれか。2つ選べ。
- a 先端巨大症
 - b 褐色細胞腫
 - c 甲状腺髄様癌
 - d 副甲状腺機能低下症
 - e Zollinger-Ellison 症候群
- 15 胸部エックス線写真で結節影を認める疾患はどれか。2つ選べ。
- a 肺クリプトコックス症
 - b 癌性リンパ管症
 - c 肺血栓塞栓症
 - d 肺動静脈瘻
 - e 肺胞蛋白症

- 16 Cushing 病でみられる検査所見はどれか。2つ選べ。
- a 白血球増多がみられる。
 - b 血中コルチゾールの日内変動が消失する。
 - c CRH 試験で血中コルチゾールの低下を認める。
 - d ^{131}I -MIBG シンチグラムで両側副腎の集積像を認める。
 - e 高用量デキサメタゾン投与によって血中コルチゾール分泌が抑制されない。
- 17 呼吸困難をきたすのはどれか。2つ選べ。
- a 声帯結節
 - b 喉頭肉芽腫
 - c 咽喉頭異常感症
 - d 急性声門下喉頭炎
 - e 両側反回神経麻痺
- 18 疾患と術後早期に起こり得る合併症の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 食道癌 ————— 骨盤内膿瘍
 - b 食道アカラシア ———— 嗄 声
 - c 胃 癌 ————— 膵 炎
 - d 上行結腸癌 ————— 排尿障害
 - e 直腸癌 ————— 射精障害

19 特発性肺線維症 (IPF) でみられるのはどれか。3つ選べ。

- a 残気量増加
- b 拡散能上昇
- c A-aDO₂ 開大
- d 血清 KL-6 上昇
- e fine crackles 聴取

20 動眼神経麻痺でみられる症候はどれか。3つ選べ。

- a 散瞳
- b 眼球陥凹
- c 眼瞼下垂
- d 眼球運動障害
- e 角膜知覚鈍麻

21 69歳の男性。意識障害のため搬入された。1年前から高血糖を指摘されていたが特に何もしなかった。1週間前から風邪気味であったが、2、3日前から咳と微熱とを認め、前日から食事摂取が不良となった。意識レベルはJCS II-30。身長172 cm、体重72 kg。呼吸数16/分。脈拍88/分、整。血圧104/88 mmHg。舌の乾燥を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。尿所見：蛋白(-)、糖3+、ケトン体(-)。血液生化学所見：血糖760 mg/dl、HbA_{1c} 7.8% (基準4.3~5.8)。抗GAD抗体陰性。

この患者の予想される検査結果に最も近いのはどれか。

- a 尿比重 1.010
- b Hb 11.5 g/dl
- c 尿素窒素 46 mg/dl
- d 動脈血 pH 7.15
- e PaCO₂ 30 Torr

22 55歳の男性。腹部不快感を主訴に来院した。2か月前から右下腹部の不快感を間欠的に自覚していた。腹部の視診と聴診とに異常を認めない。右下腹部に、腹筋の緊張時には触知しないが、弛緩時には5×4cm大の腫瘤を触知する。腫瘤は弾性硬で圧痛はなく、拍動を認めない。

最も考えられるのはどれか。

- a 腸重積症
- b 上行結腸癌
- c 腹部大動脈瘤
- d 腹壁デスマイド
- e 腹壁瘢痕ヘルニア

23 35歳の男性。反応が鈍く奇妙な姿勢をとることを心配した会社の上司に伴われて来院した。半年前から上司に「誰もいないのに職場の同僚からの悪口が聞こえてくる」と訴えていた。昨日から「会社に殺される」、「考えていることが会社に筒抜けになる」などと独り言をつぶやいていたかと思うと、黙り込んで開眼したまま無反応になったという。診察時に右手を挙上させるとそのままの姿勢をいつまでも保持する。

最も考えられる診断はどれか。

- a うつ病
- b 適応障害
- c 緊張病症状候群
- d 広汎性発達障害
- e Korsakoff 症候群

24 60歳の男性。左手関節の背屈ができなくなったことを主訴に来院した。3日前、飲酒後に居間の肘掛け付き椅子で朝まで眠っていたという。目が覚めてから左手関節の背屈ができず、左母指と左示指との背側にしびれ感があることを自覚した。2日間様子をみていたが、回復しないため受診した。

障害された可能性が高い神経はどれか。

- a 腋窩神経
- b 筋皮神経
- c 橈骨神経
- d 正中神経
- e 尺骨神経

25 56歳の男性。皮膚の角化性紅斑を主訴に来院した。2年前から手指の関節と手関節とに痛みと腫脹とがあり治療を受けていた。最近、手指の爪に変形が生じ、頭部、四肢関節部および臍部に境界明瞭な角化性紅斑が生じてきた。リウマトイド因子(RF)陰性。手指と腹部の写真(別冊No. 1A)と紅斑部の生検組織のH-E染色標本(別冊No. 1B)とを別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 成人 Still 病
- b 乾癬性関節炎
- c 梅毒性関節炎
- d 悪性関節リウマチ
- e 全身性エリテマトーデス(SLE)

別 冊 No. 1 A、B

26 32歳の女性。健康診断の腹部超音波検査で肝右葉背面の腫瘍性病変を指摘され来院した。既往歴に特記すべきことはない。身長159 cm、体重57 kg。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。血液所見：赤血球426万、Hb 13.1 g/dl、Ht 39%、白血球7,400、血小板18万。血液生化学所見：血糖98 mg/dl、総蛋白7.9 g/dl、アルブミン4.4 g/dl、尿素窒素9 mg/dl、総コレステロール125 mg/dl、総ビリルビン0.8 mg/dl、AST 12 IU/l、ALT 15 IU/l、ALP 250 IU/l(基準115～359)。免疫学所見：AFP 5 ng/ml(基準20以下)、CEA 1.4 ng/ml(基準5以下)、CA 19-9 22 U/ml(基準37以下)。腹部ダイナミックCTの動脈相(別冊No. 2A)と門脈相(別冊No. 2B)とを別に示す。

最も考えられる疾患はどれか。

- a 肝嚢胞
- b 肝細胞癌
- c 肝血管腫
- d 肝内胆管癌
- e 転移性肝癌

別冊 No. 2 A、B

27 51歳の女性。難聴と耳漏とを主訴に来院した。25年前から時々耳漏があった。

5年前から徐々に難聴が増悪し、耳漏を繰り返すようになった。側頭骨エックス線写真で乳突洞の発育は抑制されているが、骨破壊は認めない。右耳の鼓膜写真(別冊No. 3A)とオーディオグラム(別冊No. 3B)とを別に示す。

適切な治療はどれか。

- a 鼓室形成術
- b 中耳根治術
- c アブミ骨手術
- d 試験的鼓室開放術
- e 人工内耳植え込み術

別 冊

No. 3 A、B

28 61歳の女性。労作時の息切れを主訴に来院した。1年前から呼吸困難を自覚するようになり、この2か月で徐々に症状が増悪するようになった。最近6か月で3kgの体重増加を認めた。意識は清明。身長154cm、体重52kg。呼吸数18/分。脈拍84/分、整。血圧132/74mmHg。心尖部で3/6度の全収縮期雑音とⅢ音とを聴取する。呼吸音に異常を認めない。下腿に軽度の浮腫を認める。Holter心電図で明らかな異常を認めない。心エコー図(別冊No. 4A、B)とカラードプラ心エコー図(別冊No. 4C)とを別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 左房粘液腫
- b 僧帽弁狭窄症
- c 心室中隔欠損症
- d 大動脈弁狭窄症
- e 僧帽弁逸脱症候群

別 冊

No. 4 A、B、C

29 68歳の女性。頸部腫瘤を主訴に来院した。この半年で6kgの体重減少を認めた。身長155cm、体重45kg。体温37.6℃。頸部と腋窩とに直径2cmのリンパ節を数個触知する。腹部造影CTで腹部大動脈周囲にリンパ節の腫大がみられ、頸部リンパ節生検で悪性リンパ腫と診断された。

病期はどれか。

- a ⅡA
- b ⅡB
- c ⅢA
- d ⅢB
- e ⅣA

30 5歳の男児。1時間前から数分間持続する全身の強直性間代性けいれんを3回繰り返したため搬入された。1年前から熱いものを食べたり激しく泣いたりしたときに右片麻痺あるいは左片麻痺を認めていた。片麻痺発作は10分程度で改善したが、このような発作は1か月に1回あったという。神経学的所見で両側の上下肢の軽度筋力低下、腱反射亢進および Babinski 徴候を認める。頭部単純 MRI の T1 強調像(別冊No. 5)を別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 上衣腫
- b もやもや病
- c 頭蓋咽頭腫
- d 結核性髄膜炎
- e 亜急性硬化性全脳炎

別冊

No. 5

31 70歳の男性。全身の掻痒感と褐色尿とを主訴に来院した。1週前から尿の濃染を、3日前から皮膚掻痒感を自覚していた。意識は清明。身長160cm、体重58kg。体温35.8℃。脈拍72/分、整。皮膚は黄染、乾燥し、多数の掻爬痕を認める。眼球結膜に黄染を認める。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知せず、圧痛を認めない。血液所見：赤血球454万、Hb12.1g/dl、Ht36%、白血球5,500、血小板12万。血液生化学所見：総蛋白6.1g/dl、アルブミン3.4g/dl、総ビリルビン12.1mg/dl、直接ビリルビン8.3mg/dl、AST233IU/l、ALT354IU/l、LD488IU/l(基準176~353)、ALP1,091IU/l(基準115~359)、 γ -GTP825IU/l(基準8~50)、Na141mEq/l、K4.2mEq/l、Cl107mEq/l。経皮経肝胆道ドレナージチューブからの造影と内視鏡的逆行性胆管造影とを同時に行った胆管造影写真(内視鏡は抜去後)(別冊No. 6)を別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 胆嚢癌
- b 膵頭部癌
- c 肝包虫症
- d 総胆管結石
- e 肝門部胆管癌

別冊

No. 6

32 40歳の女性。頭痛と左眼痛とを主訴に来院した。3週前から複視があった。視力は右1.0(矯正不能)、左1.0(矯正不能)。左眼の結膜浮腫、上強膜静脈の怒張および拍動性眼球突出を認める。左眼の内転障害と上下転障害とを認める。左眼窩外側縁で血管性雑音を聴取する。

考えられるのはどれか。

- a 左眼窩内血管腫
- b 左前頭葉血管芽腫
- c 脳底動脈巨大動脈瘤
- d 左側頭葉動静脈奇形
- e 左内頸動脈海綿静脈洞瘻

33 45歳の女性。右視力低下と排尿障害とを主訴に来院した。3か月前にもものが二重に見えたが1週間で軽快した。1か月前から右眼瞼が閉じにくくなり、その後右顔面の感覚鈍麻に気付いた。5日前から排尿障害があり、昨日急に右視力が低下した。10年前から高血圧症の治療を受けている。意識は清明。視力は右0.1(矯正不能)、左1.0(矯正不能)。眼底に異常を認めない。眼球運動は右眼の外転が不十分である。右顔面の痛覚低下を認める。両側上下肢の軽い運動麻痺があり、両側上下肢で腱反射が亢進し、Babinski徴候は両側陽性である。脳脊髄液検査で細胞数 $6/\text{mm}^3$ (全て単核球)(基準 $0\sim 2$)、蛋白 56 mg/dl (基準 $15\sim 45$)である。

直ちに行うべき治療はどれか。

- a 高圧酸素療法
- b シクロスポリン投与
- c ステロイドパルス療法
- d インターフェロン β 投与
- e ガンマグロブリン大量静注

34 62歳の男性。持続する腰痛を主訴に来院した。3か月前、ゴルフの後に腰痛が出現した。自宅近くの診療所で薬物療法と理学療法とを受けたが腰痛は軽減せず、1か月前からは左下肢痛も加わった。身長165 cm、体重55 kg。体温36.9℃。下部腰椎に叩打痛と運動時痛とを認める。腰椎前後屈で左殿部から左大腿部への放散痛がある。歩行は可能。Lasègueテスト両側陰性。左L4、L5及びS1神経根領域に感覚鈍麻と軽度の筋力低下とを認める。血液所見：赤血球390万、Hb11.3 g/dl、Ht36%、白血球7,600、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白7.0 g/dl、アルブミン3.5 g/dl、ALP421 IU/l(基準115~359)、Na143 mEq/l、K4.3 mEq/l、Cl102 mEq/l、Ca11.0 mg/dl、P3.0 mg/dl。CRP0.9 mg/dl。初診時の腰椎エックス線写真(別冊No. 7)を別に示す。

この患者の腰下肢痛の原因として最も考えられるのはどれか。

- a 骨粗鬆症
- b 変形性脊椎症
- c 化膿性脊椎炎
- d 椎間板ヘルニア
- e 転移性脊椎腫瘍

別 冊

No. 7

35 32歳の女性。暑がり、発汗過多、手指振戦および労作時の動悸を主訴に来院した。2週前から症状が出現したという。感冒様症状の先行はない。身長162 cm、体重52 kg。体温36.2℃。呼吸数28/分。脈拍104/分、整。血圧128/72 mmHg。甲状腺はびまん性に腫大、弾性硬、表面に軽度凹凸を認め、圧痛を認めない。皮膚は湿潤し、手指に振戦を認める。血液生化学所見：総コレステロール105 mg/dl、AST 20 IU/l、ALT 26 IU/l、TSH 0.1 μ U/ml(基準0.2~4.0)、FT₄ 3.2 ng/dl(基準0.8~2.2)。^{99m}TcO₄⁻甲状腺シンチグラム(別冊No. 8)を別に示す。

考えられるのはどれか。

- a Basedow 病
- b Plummer 病
- c 無痛性甲状腺炎
- d 甲状腺未分化癌
- e 急性化膿性甲状腺炎

別 冊

No. 8

36 52歳の女性。眼精疲労を主訴に来院した。10年前から両眼の異物感があった。視力は右1.0(矯正不能)、左1.0(矯正不能)。眼圧は右12 mmHg、左12 mmHg。Schirmer 試験は右1 mm、左1 mm(基準10~15)。フルオレセイン染色下での細隙灯顕微鏡検査にて角膜に点状の上皮欠損を認める。眼底に異常を認めない。

考えられるのはどれか。

- a Reiter 症候群
- b Sjögren 症候群
- c Sturge-Weber 症候群
- d von Recklinghausen 病
- e Wilson 病

37 28歳の女性。食後の腹部膨満感を主訴に来院した。1か月前から2週間にわたり、南アジアを旅行した。帰国3日前から、1日2、3回の軟便と食後の腹部膨満感とが出現し、帰国後も10日以上持続したため受診した。体温36.4℃。脈拍88/分、整。血圧120/70 mmHg。腹部に圧痛を認めない。腸雑音は軽度亢進している。血液所見：赤血球390万、Hb 11.2 g/dl、Ht 34%、白血球6,500、血小板32万。血液生化学所見：尿素窒素20 mg/dl、クレアチニン0.4 mg/dl、AST 31 IU/l、ALT 40 IU/l、LD 203 IU/l(基準176~353)、ALP 344 IU/l(基準115~359)、Na 140 mEq/l、K 4.0 mEq/l、Cl 101 mEq/l。CRP 0.4 mg/dl。便の顕微鏡写真(別冊No. 9)を別に示す。

診断はどれか。

- a 回虫症
- b アメーバ赤痢
- c 日本海裂頭条虫症
- d ランブル鞭毛虫症
- e カンピロバクター感染症

別 冊

No. 9

38 10歳の男児。自転車で走行中に自動車にはねられたため搬入された。意識レベルはJCSⅡ-20。脈拍120/分、整。血圧86/42 mmHg。血液所見：赤血球290万、Hb7.2 g/dl、Ht27%、白血球11,200、血小板15万。酸素吸入と輸液とを開始後、腹部超音波検査を行い肝腎境界部に液体貯留を認めた。血圧が108/64 mmHgに上昇した後に施行した腹腔動脈造影写真(別冊No. 10)を別に示す。

対応として最も適切なのはどれか。

- a 開腹手術
- b 動脈塞栓術
- c 血栓溶解療法
- d 腹腔ドレナージ
- e 血管内ステント留置

別冊 No. 10

39 82歳の男性。尿量の減少と全身倦怠感を主訴に来院した。3年前に胃癌にて胃全摘術を受けたが、受診は2年前から中断している。意識は清明。体温 36.7℃。血圧 144/94 mmHg。上腹部に手術痕を、両下肢に強い浮腫を認める。その他の身体診察所見に明らかな異常を認めない。血液所見：赤血球 362 万、Hb 10.8 g/dl、Ht 28 %。血液生化学所見：尿素窒素 40 mg/dl、クレアチニン 2.8 mg/dl、総ビリルビン 1.0 mg/dl、AST 38 IU/l、ALT 42 IU/l、Na 132 mEq/l、K 5.6 mEq/l、Cl 98 mEq/l。腹部超音波検査で膀胱内に尿を認めない。胸部エックス線写真にて心胸郭比 58 %。腹部単純 CT(別冊No. 11)を別に示す。

まず行う処置として適切なのはどれか。

- a 尿管ステント留置
- b 膀胱穿刺
- c 血液透析
- d 腹膜透析
- e 大量輸液

別 冊

No. 11

40 4か月の男児。健康診査で左股関節の開排制限を指摘され来院した。初診時の下肢の写真(別冊No. 12)を別に示す。

対応として適切でないのはどれか。

- a 家族歴と成長歴とを聴取する。
- b 超音波検査を行う。
- c 徒手整復後にギプス固定を行う。
- d リーメンビューゲル装具による治療を行う。
- e 将来、変形性関節症になる可能性を両親に説明する。

別 冊

No. 12

41 92歳の女性。左頬部の結節を主訴に来院した。5年前から同部に「赤い皮疹」があったが受診しなかった。主訴である結節は、この「赤い皮疹」が発生母地になっていると考えられた。左頬部の写真(別冊No. 13A)と生検組織のH-E染色標本(別冊No. 13B)とを別に示す。

「赤い皮疹」の診断名として考えられるのはどれか。

- a 血管肉腫
- b 菌状息肉症
- c 光線角化症
- d Merkel細胞癌
- e 乳房外Paget病

別 冊

No. 13 A、B

42 78歳の男性。血痰を主訴に来院した。5か月前から咳嗽と喀痰とを自覚していたが、そのままにしていた。本日急に血痰を認めたため受診した。20年前に肺結核の既往がある。意識は清明。身長165 cm、体重52 kg。体温37.3℃。呼吸数18/分。脈拍92/分、整。血圧110/70 mmHg。呼吸音は右上肺野で弱く、coarse cracklesを聴取する。喘鳴を認めない。血液所見：白血球11,000(桿状核好中球7%、分葉核好中球59%、好酸球1%、単球10%、リンパ球23%)。CRP 1.8 mg/dl。胸部エックス線写真(別冊No. 14A)と胸部単純CT(別冊No. 14B)とを別に示す。

治療薬として適切なのはどれか。

- a 副腎皮質ステロイド
- b イトラコナゾール
- c クリンダマイシン
- d 免疫グロブリン
- e ペニシリンG

別 冊

No. 14 A、B

43 68歳の男性。呼吸困難を主訴に来院した。最近労作時の息切れを自覚するようになっていた。午前3時ころから息苦しくなり泡沫様の痰を喀出し、臥位をとれなくなったため救急外来を受診した。夏の暑さのため食欲はないが、麦茶を多飲している。尿量は保たれているという。60歳時に心筋梗塞の既往がある。意識は清明。呼吸数22/分。脈拍104/分、整。血圧116/76 mmHg。頸静脈の怒張を認める。四肢末梢に冷感を認めない。両側肺野に coarse crackles を聴取する。心尖部にⅢ音を聴取する。右肋骨弓下に肝を4 cm 触知する。経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO₂) 85 % であったが、酸素吸入によって SpO₂ は 96 % まで上昇した。

治療薬として最も適切なのはどれか。

- a 去痰薬
- b 利尿薬
- c 鎮静薬
- d 抗菌薬
- e 血管拡張薬

44 1歳6か月の男児。1歳6か月児健康診査のため来院した。正常分娩で出生した。1か月時の健康診査で心雑音を指摘され経過観察されていた。呼吸困難とチアノーゼとを認めない。身長80 cm、体重12.2 kg。体温36.8℃。呼吸数28/分。脈拍92/分、整。血圧94/60 mmHg。胸骨左縁第2肋間を最強点とする4/6度の粗い収縮中期雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

最も考えられるのはどれか。

- a 大動脈縮窄症
- b 心房中隔欠損症
- c 心室中隔欠損症
- d 肺動脈弁狭窄症
- e 僧帽弁閉鎖不全症

45 75歳の女性。体重減少を主訴に来院した。4か月前から時々心窩部痛があり、体重が約10kg減少した。身長153cm、体重38kg。眼瞼結膜に貧血を認める。腹部は平坦、軟で、腫瘤を触知しない。血液所見：赤血球295万、Hb6.9g/dl、Ht26%。血液生化学所見：総蛋白6.0g/dl、アルブミン3.3g/dl、AST30IU/l、ALT32IU/l、LD326IU/l(基準176~353)。CEA12ng/ml(基準5以下)。上部消化管内視鏡検査を施行し、生検で印環細胞癌と*Helicobacter pylori*陽性と診断された。上部消化管内視鏡写真(別冊No.15A)と腹部造影CTの冠状断像(別冊No.15B、C)とを別に示す。

対応として適切なのはどれか。

- a 胃全摘術
- b 試験開腹術
- c 幽門側胃切除術
- d 全身抗癌化学療法
- e *Helicobacter pylori* 除菌治療

別 冊

No. 15 A、B、C

46 48歳の女性。尿検査の異常を主訴に来院した。2年前に健康診断で尿検査の異常を指摘されたが、受診しなかった。今年健康診断でも同じ異常を指摘されたため精査目的で来院した。身長160 cm、体重60 kg。体温36.4℃。脈拍72/分、整。血圧142/84 mmHg。口蓋扁桃の腫大、発赤および白苔の付着を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟。四肢に浮腫を認めない。尿所見：蛋白2+、糖(-)、潜血3+、尿蛋白1.8 g/日。血液所見：赤血球380万、Hb 11.2 g/dl、Ht 34%、白血球6,600、血小板18万。血液生化学所見：総蛋白6.8 g/dl、アルブミン3.8 g/dl、IgG 1,560 mg/dl(基準739~1,649)、IgA 360 mg/dl(基準107~363)、尿素窒素24 mg/dl、クレアチニン1.4 mg/dl、尿酸8.5 mg/dl、Na 136 mEq/l、K 4.0 mEq/l、Cl 104 mEq/l。免疫学所見：CRP 0.3 mg/dl、抗核抗体陰性。腎生検のPAS染色標本(別冊No. 16A)、蛍光抗体IgA染色標本(別冊No. 16B)及びC₃染色標本(別冊No. 16C)を別に示す。

この患者に対する治療方針として適切でないのはどれか。

- a 蛋白制限
- b 抗血小板薬投与
- c ステロイドパルス療法
- d 非ステロイド性抗炎症薬(NSAID)投与
- e アンジオテンシン変換酵素阻害薬投与

別冊

No. 16 A、B、C

47 16歳の女子。浮腫を主訴に来院した。2週前に発熱と咽頭痛とが出現したが3日で症状は消失した。昨日から尿量の減少を自覚し、本日、排尿がほとんどなく、下腿浮腫が出現したため来院した。3か月前の学校検尿では異常を指摘されなかった。身長156 cm、体重48 kg。体温36.2℃。呼吸数12/分。脈拍80/分、整。血圧138/88 mmHg。口蓋扁桃の軽度腫大を認める。前脛骨部に圧痕浮腫を認める。尿所見：蛋白1+、糖(-)、潜血3+、尿沈渣に赤血球100以上/1視野、白血球5~10/1視野、赤血球円柱+。血液所見：赤血球400万、Hb12.8 g/dl、Ht38%、白血球6,400、血小板22万。血液生化学所見：総蛋白7.0 g/dl、アルブミン3.8 g/dl、IgG1,440 mg/dl(基準739~1,649)、IgA215 mg/dl(基準107~363)、尿素窒素22 mg/dl、クレアチニン1.2 mg/dl、Na140 mEq/l、K5.6 mEq/l、Cl104 mEq/l。免疫学所見：CRP0.3 mg/dl、ASO1,280 単位(基準250以下)、抗核抗体陰性、CH₅₀18 U/ml(基準30~50)。超音波検査で腎の大きさと形状とに異常を認めない。

この患者の入院後の治療方針で適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬投与
- c ペニシリン系抗菌薬点滴静注
- d 副腎皮質ステロイド経口投与
- e 血液透析療法

48 3歳の男児。肩呼吸が続くことを主訴に来院した。2週前に上気道炎に罹患した。その後元気がなくなり、水分を欲しがることが多くなった。次第に頻尿と夜尿とを認めるようになり、肩で大きな息をするようになった。身長92 cm(-1.0 SD)、体重12.1 kg(-1.4 SD)。体温37.1℃。呼吸数32/分。脈拍104/分、整。血圧90/62 mmHg。経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)99%。目はうつろで眼周囲はくぼみ、呼吸は速く肩を上下させている。陥没呼吸を認めない。会話は可能である。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部はやや膨隆しているが、肝・脾を触知しない。尿所見：蛋白(-)、糖4+、ケトン体4+。血液所見：赤血球471万、Hb13.8 g/dl、Ht43%、白血球11,200、血小板16万。血液生化学所見：血糖664 mg/dl、総蛋白6.5 g/dl、アルブミン4.2 g/dl、尿素窒素8.1 mg/dl、クレアチニン0.3 mg/dl、AST22 IU/l、ALT18 IU/l、LD437 IU/l(基準335~666)、Na126 mEq/l、K3.9 mEq/l、Cl99 mEq/l。CRP0.1 mg/dl。動脈血ガス分析(自発呼吸、room air)：pH7.13、PaCO₂25 Torr、PaO₂102 Torr、HCO₃⁻8 mEq/l。

まず投与するのはどれか。

- a 抗菌薬
- b 生理食塩液
- c バソプレシン
- d 20%ブドウ糖液
- e 重炭酸ナトリウム

49 45歳の女性。胸痛と呼吸困難とを主訴に来院した。農作業中に重いものを一気に持ち上げたところ左肩から背部にかけて痛みを自覚し、その後呼吸困難が出現した。既往歴に特記すべきことはない。意識は清明。体温 36.6℃。呼吸数 27/分。脈拍 116/分、整。血圧 106/66 mmHg。心音は減弱している。左肺野で呼吸音は消失している。胸部エックス線写真(別冊No. 17)を別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a ドパミン投与
- b 持続的陽圧換気
- c 胸腔ドレナージ
- d プレドニゾロン投与
- e アミノフィリン投与

別 冊

No. 17

50 78歳の女性。繰り返す失神を主訴に来院した。自宅近くの診療所で発作性心房細動の治療中であり、最近、抗不整脈薬を増量した。意識は清明。脈拍 56/分。血圧 138/78 mmHg。心音に異常を認めない。症状出現時のHolter心電図(別冊No. 18)を別に示す。

現時点で行う処置として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a ジギタリス投与
- b 抗不整脈薬の中止
- c 一時的ペーシング
- d 植え込み型除細動器移植術
- e 永久型ペースメーカー移植術

別 冊

No. 18

51 56歳の男性。発熱と膿性痰とを主訴に来院した。3日前から38℃台の発熱と膿性痰とを認めている。既往歴と家族歴とに特記すべきことはない。胸部エックス線写真にて右下肺野に浸潤影を認める。喀痰のGram染色で好中球と菌体とを多数認める。

考えられる起炎菌はどれか。2つ選べ。

- a *Chlamydophila (Chlamydia) pneumoniae*
- b *Haemophilus influenzae*
- c *Klebsiella pneumoniae*
- d *Mycoplasma pneumoniae*
- e *Streptococcus pneumoniae*

52 4歳の男児。頻回のげっぷを主訴に来院した。半年前から次第にげっぷの回数が増えてきた。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知せず、圧痛を認めない。24時間下部食道pHモニタリングの結果(別冊No. 19)を別に示す。

この疾患に対する有効な治療法はどれか。2つ選べ。

- a 手術
- b 食後臥位
- c 鎮痙薬投与
- d カウンセリング
- e 酸分泌抑制薬投与

別 冊

No. 19

53 38歳の男性。1か月前からの腹部膨満感と全身倦怠感とを主訴に来院した。3年前に慢性骨髄性白血病と診断され通院治療を受けていた。しばしば治療を中断し、前回の受診は半年前である。半年で体重が5kg減少した。身長168cm、体重53kg。体温36.8℃。眼瞼結膜に貧血を認める。腹部は軽度膨隆し、右肋骨弓下に肝を6cm、左肋骨弓下に脾を10cm触知する。血液所見：赤血球280万、Hb8.2g/dl、Ht30%、白血球98,000(桿状核好中球5%、分葉核好中球25%、好塩基球4%、好酸球1%、単球3%、リンパ球18%、芽球44%)、血小板11万。骨髓に芽球を45%認める。末梢血塗抹May-Giemsa染色標本(別冊No. 20)を別に示す。

治療として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 抗癌化学療法
- b 分化誘導療法
- c 免疫抑制療法
- d サイトカイン療法
- e 同種造血幹細胞移植

別冊 No. 20

54 3か月の乳児。激しい咳を主訴に来院した。2週前に咳が出現し、次第に強くなってきた。今朝からは激しく咳込んだ後に笛が鳴るような呼吸音がしている。保育所で同様の症状の児が複数いるという。呼吸数36/分。心拍数140/分、整。両眼瞼は浮腫状。咽頭は軽度発赤しており、舌圧子を入れると咳込む。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦で、右肋骨弓下に肝を2cm触知する。脾を触知しない。血液所見：赤血球430万、Hb12.0g/dl、Ht36%、白血球21,000(桿状核好中球6%、分葉核好中球20%、単球2%、リンパ球72%)。

注意すべき合併症はどれか。2つ選べ。

- a 脳 症
- b 髄膜炎
- c 無呼吸発作
- d 間質性肺炎
- e 溶血性貧血

55 25歳の男性。排尿痛と膿性尿道分泌物とを主訴に来院した。1週前に性行為感染の機会があった。3日前から症状に気づき受診した。直腸指診で前立腺の腫大と圧痛とを認めない。尿所見：蛋白1+、糖(-)、潜血1+、沈渣に白血球多数/1視野、赤血球20~30/1視野。

診断のために行う検査はどれか。2つ選べ。

- a 尿培養
- b 尿細胞診
- c 尿道鏡検査
- d 経直腸超音波検査
- e 尿道分泌物 Gram 染色

56 29歳の女性。不妊と月経不順とを主訴に来院した。身長152 cm、体重65 kg。内診で子宮は正常大である。経膈超音波検査で両側卵巣は軽度に腫大している。基礎体温は一相性で、黄体ホルモン剤投与で消退出血を認める。血中ホルモン所見：LH 12.4 mIU/ml(基準1.8~7.6)、FSH 7.2 mIU/ml(基準5.2~14.4)、テストステロン 100 ng/dl(基準30~90)、エストラジオール 60 pg/ml(基準25~75)。

まず行うべき対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 減量指導
- b クロミフェン投与
- c GnRH アゴニスト投与
- d 卵胞刺激ホルモン投与
- e ドパミンアゴニスト投与

57 60歳の女性。右耳の耳鳴と難聴とを主訴に来院した。最近、電話の受話器を左手に持ち左耳で聞くことが多くなった。頭部MRI(別冊No. 21)を別に示す。

この患者にみられるのはどれか。3つ選べ。

- a 歩行時によろめく。
- b 右側の同名半盲を訴える。
- c 右側の嗅覚が低下している。
- d 右側の顔面神経麻痺がみられる。
- e 右側を注視すると大きな振幅の眼振がみられる。

別 冊 No. 21

58 52歳の男性。胸部圧迫感を主訴に来院した。1か月前から仰向けに寝ると前胸部に違和感を自覚していた。心音と呼吸音とに異常を認めない。初診時の胸部造影CT(別冊No. 22)を別に示す。

診断に必要な検査項目はどれか。3つ選べ。

- a 可溶性IL-2受容体
- b 絨毛性ゴナドトロピン
- c 抗ミトコンドリア抗体
- d 抗サイログロブリン抗体
- e 抗アセチルコリン受容体抗体

別 冊

No. 22

59 35歳の男性。2週間からの悪寒、発熱および下痢を主訴に来院した。6か月前と2か月前とに発熱を伴う気管支炎を発症し、自宅近くの診療所にて抗菌薬投与を受け1週間程度で軽快した。体重が6か月で10kg減少した。8年前に海外渡航歴がある。意識は清明。身長168cm、体重50kg。皮膚、口唇および口腔粘膜は乾燥し、舌と口腔粘膜に白苔を広汎に認める。腹部は平坦で、全体に軽度の圧痛を認めるが、筋性防御は認めない。血液所見：赤血球560万、Hb16.0g/dl、Ht48%、白血球12,200(好中球77%、好酸球5%、好塩基球1%、単球12%、リンパ球5%)、血小板34万。CRP12.3mg/dl。

初期の対応として適切なのはどれか。3つ選べ。

- a 輸液
- b 抗菌薬投与
- c 抗真菌薬投与
- d 抗HIV薬投与
- e 無菌室への入室

60 70歳の男性。急に右上下肢が動かなくなったため、発症から1時間後に搬入された。意識レベルはJCS I-2。全失語と右片麻痺とがみられる。脈拍88/分、不整。血圧152/94 mmHg。既往歴に高血圧と心房細動とがある。頭部MRIの拡散強調像(別冊No. 23A)と頭部MRA(別冊No. 23B)とを別に示す。

診断はどれか。

- a アテローム血栓性脳梗塞
- b 出血性脳梗塞
- c 心原性脳塞栓症
- d 中大脳動脈解離
- e 椎骨動脈解離
- f 脳動脈瘤破裂
- g 被殻出血
- h 皮質下出血
- i もやもや病

別冊 No. 23 A、B
